

アメリカジガバチ

「壁に拳ほどの泥の塊^{かたまり}がついていて、だれかのいたずらかと^{はち}思っていたら、蜂がその付近を飛び回っている。これはどういうことなのでしょう？」という電話がかかってきました。写真送ってもらおうと、下の写真でした。

最近、夏になるとこのような問い合わせが増えています。

皆さんは、このようなものを見たことがありますか？これは、アメリカジガバチという蜂の一種が作った、幼虫を育てるための巣なのです。

アメリカジガバチは、戦後すぐの頃に北アメリカから東京と大阪に入ってきた^{がいらい}外来の昆虫です。今では関東から西の地域、九州までも広がっています。

富山県では、1980年代に富山市で見つかりはじめました。その後、ぽつぽつと富山市内で見られるようになり、最近では県内の平野部に広く広がっているようです。

アメリカジガバチのメスは、体長 2.5 cm ほどの細長い^{はち}蜂で、夏に、家の壁や塀などの雨の当たりにくい庇の下などに泥を使って巣を作ります。メスは、湿った泥のある場所からアゴで泥を丸め運んできてそれを壁などにはりつけます。何度も運び少しずつ泥の筒^{つつ}を作っていきます。直径が 1 cm ほど長さが 4 cm ほどの泥の筒^{つつ}が出来ると、こんどは小形のクモを狩ってきて筒^{つつ}の中に入れ卵一つを産み付けます。クモは 5 匹から 10 匹程度入れます。このクモが卵からかえった幼虫のエサとなります。最後に、筒^{つつ}の入り口を泥でふさいで一つの部屋が完成します。こんな部屋を 10 部屋程度くっつけて作り、一つの泥のかたまりのようにしてしまいます。

産卵^{さんらん}から一月ほどで、新しい成虫が入り口の泥に穴を開けて巣から出てきます。羽化^{うか}した成虫は、どこか別の所で巣を作り、成虫が羽化した巣は再度使われることはありません。

この蜂^{はち}は、人や動物に害を加えることはありませんので家のまわりを飛んでいても特に気にする必要はありません。ただ、壁や塀^{かべ}を泥^{よご}で汚されるので気になる方もいるでしょうが、少々大目に見てやってはいかがでしょうか。



横から見たようす



下から見たようす



アメリカジガバチ

アメリカジガバチの泥の巣

日本在来のキゴシジガバチ（アメリカジガバチと姿形はそっくりで、細い^{ふくへいぶ}腹柄部が黄色。アメリカジガバチはその部分は黒色。）も全く同様な巣を作り、同等な生活をしますが、富山県ではこちらのほうはたいへん少ないようで今まで 1 回の記録（黒部市）しかありません。

(2008 年 6 月根来 尚)